

会 議 名	所信表明演説会（副議長選挙）		テープ番号
			—
開会年月日	令和元年5月14日	開会時刻	午前11時15分
		閉会時刻	午前11時32分
議員 出席 名 委員	選考委員会委員長 中谷 昭、選考委員会副委員長 村岡 均、 議 員 池辺 貢三、 議 員 大塚 英一、 議 員 貫野幸治郎、 議 員 高橋 登、 議 員 田立 恵子、 議 員 谷野 司、 議 員 中村与志子、 議 員 野田 悦子、 議 員 林 哲二、 議 員 堀口 陽一、 議 員 丸谷正八郎、 議 員 溝口 浩、 議 員 村田 雅利、 議 員 森下 巖		
議員 欠席 名 委員			
理事者側出席者			
案 件	1. 大塚議員による所信表明演説 2. 野田議員による所信表明演説		

(午前11時15分 開会)

○中谷選考委員長 準備が整いましたので、まず大塚議員所信表明をお願いいたします。

○松下議会事務局長 すいません。大塚議員、野田議員所定の席までお願いします。

(大塚議員、野田議員所定の席に着く)

○中谷選考委員長 準備が整いましたのでそれでは大塚議員所信表明をお願いいたします。大塚議員。

(大塚議員登壇)

○大塚議員 この度の副議長選挙におきまして、立候補させていただきました公明党の大塚英一でございます。ただいまより副議長選挙の実施に先立ちまして、所信表明をさせていただきます。

まず私が思うところの副議長の役割を大きく2つのポイントで申し述べたいと思います。

まず1つは、何よりも議長を補佐していく点でございます。議員各位のご協力を得ながらしっかりと議長を支え、公平公正な議会運営を図るとともに、闊達な議論の展開により議会が市民の皆様身近に感じ厚い信頼が得られますよう全力を尽くしていくことが重要であると考えております。

また、闊達な議論を展開していくためには、理事者の皆様を初め、市職員の皆様のご協力も必要であり、皆様としっかりコミュニケーションが取れなければならないと考えております。私は先の1期4年間で13回の一般質問を行いました。意識的に幅広くさまざまな部署に関して質問を行うよう努め、その中でさまざまな議論や意見交換をさせていただきました。また、市民相談に関しまして、先の4年間でさまざまな分野に及ぶ1,000件を超える相談を頂戴し、それぞれの担当課の皆様と意見交換や要望をさせていただきました。

こうした真摯な姿勢でさまざまなお声に耳を傾けていくこと、また対話をしていくことが重要であると考えておりまして、こうしたことが副議長には求められていると思っております。

続いて大きなポイントの2つ目は、泉大津市議会を知っていただく取り組みでございます。先般行われました泉大津市議選の投票率は43.63パーセントと大変低い結果となりました。近年は選挙を行うたびに投票率が低下している状態です。要因はさまざまあるかと思いますが、まずは市民の声を聞くこと、行政のチェック機能を高め、政策提言の実力を磨き、市民への情報発信を強化していくことが重要ではないかと思っております。また副議長という役職はこれまで以上に市内外での公務や式典、諸行事などに出席する機会が増えます。そうした中でのあらゆる方々とコミュニケーションをとり、泉大津市議会を知っていただく、また、泉大津市を知っていただくよう努めていくことも重要であると考えております。

以上大きく2点私が思う副議長の役割について申し述べさせていただきました。私自身はなはだ未熟で経験不足な面があるかと思いますが、どこまでも謙虚な姿勢でよりよい泉大津市議会としていく、そしてそのことが市政の更なる発展につながると信じて粉骨砕身頑張っている決意でございます。どうか議員各位のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。私の所信表明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○中谷選考委員長 以上で大塚議員の所信表明が終わりました。これより大塚議員に対する質疑に入りますが、所信に対する質疑は議長選挙と同様に個人の誹謗中傷、名誉棄損に当たら

ないようにお願いいたします。それでは、質疑はありませんか。森下議員。

○森下議員 副議長選挙に当たって大塚議員に質問させていただきます。

先ほどの議長選挙の中でも議会基本条例のことに触れられておられましたが、私も議会基本条例を作ってきた、8年間議会改革の委員という形でしてきたわけですが、その議会基本条例が制定するときにはまだ議員でなく、一市民という形で、前回の選挙から議員となられた、議会基本条例が制定された後議員となられたわけですが、その際にやはり作ってきた側とあるいはもともとあるという状況の中で、議員活動をされてきた中で、見え方とか感じ方なんかも随分違うんじゃないかなというふうに思っていて、その辺りぜひ、とりわけ私がお聞きをしたいのは、市民の皆さんに開かれた議会という形で、この4年間も取り組んできたわけですが、ぜひともその中で見えてきた課題ですとか、あるいはこういった点を前に進めていきたいというものがございましたら、教えていただければというふうに思います。

○大塚議員 森下議員からご質問いただきました。議員となる前とその後の見え方等々についてまずお尋ねがありました。私自身も議員となる前は市民としておったわけなんですけれども、なかなか実際のところ、議会のことわからない点、議員となって初めて分かった点もございまして、より市民の皆様に関わりやすい議会としていくことが大変重要であると考えております。また私自身先の所信表明で述べましたように、数々の市民相談を頂戴いたしました。その中で私自身誠心誠意取り組みさせていただきましたが、議会として議会全体としてもそういったお声に答える対策対応が必要であると思います。

さきの議長選挙で池辺議長からもさまざまな所信表明がございました。まずは副議長になりましたならば、まずはその考えをしっかりと理解共有し、そしてそれに向けて議員の皆様と協力して行っていくことが大変重要であると考えております。以上でございます。

○中谷選考委員長 森下議員。

○森下議員 はい、今お答えをいただいたわけですが、基本的な考えについてはお聞かせをいただきました。とりわけ私は意見交換会という形で市民と対話活動を進めてきたけども、その中で特に思っておられる課題ですとか、問題ですとか、もっとこうしたほうがいいんじゃないかというようなところがございましたらその点だけ教えていただけますか。

○中谷選考委員長 大塚議員。

○大塚議員 ご答弁させていただきます。意見交換会もこれまで何回か開催され、私も出席させていただきました。これは私の個人的な考えですが、やっぱり出席される方はそれぞれご意見ご要望おっしゃりたいと思って来られていると思いますので、少人数、小グループに分かれて、それぞれ皆さんがご自由に意見、ご要望おっしゃっていただけるそういった取り組み、環境が必要であろうかと考えております。以上でございます。

○森下議員 ありがとうございます。

○中谷選考委員長 はい、他に。他にないようでありますので質疑を終わります。

次に野田議員、所信表明をお願いいたします。野田議員。

(野田議員登壇)

○野田議員 改めまして、皆様方にお時間頂戴いたします。この度泉大津市議会初の正副議長

選挙において、副議長に立候補させていただきました野田悦子でございます。立候補に当たり所信の一端を述べさせていただきます。

私はこの4年前のこの同じ時期に初めての正副議長を初めとする役員選出を経験しました。そのときは何が起きているのか、どこで議長が決まっているのか、議会に身を置きながら参加している実感はなく、理解ができなかったことを今でも記憶しております。もちろん条例に定められた方法で、粛々と進められていたわけですが、指名推薦であることが誰にでもわかりやすい状況ではなかっただけだとその後の3回の改選で理解してまいりました。今回議場にて立候補者が所信を述べ、選挙で選出されることは泉大津市議会が常に市民に開かれた議会を目指してきた中の1つの形でございます。その第1回目の選挙で、副議長という大役に立候補させていただくことは、より一層身の引き締まる思いでこの場に立っております。

先にも述べさせていただきましたが、本市議会は議会改革検討協議会を早くから立ち上げ、先人の皆様の強い思いを継承して、より市民に近い開かれた議会にするために、会派、主義主張、思想、信念の違う議員間の壁を越え、委員長を中心に一丸となって進めており、私も4年間委員として関わり、先進市への視察や協議に携わってまいりました。結果近隣市の中だけではなく、全国でも改革度の高い市であると評価されるまでになりました。

真の民主主義の根幹である議会として、少数派の意見にもしっかりと耳を傾け、討議により結論を導き出していく努力と仕組みづくりや、より広く市民に開かれた議会への取り組みなど、まだまだ議会改革に向けて次の4年間も多くの課題に取り組んでいく道半ばの大事な時期に当たります。

また、議会は二代表制において議決権を持つ、すなわち市政の方向の決定機関として一翼を担う立場にあり、予算決算はもとより議案の1つずつにおいても精査を重ね、しっかりとチェック機能を果たし、よりよい泉大津市にすべく諮っていかねばなりません。そのためにも議案に対する理事者からの説明に不足はないのか、少しでも不足があれば求めていく気概を持って、より深く知る機会が得られるであろう副議長という立場に立って、先に選出された、池辺議長を全力でお支えし、ともに議会を前へと進めてまいりたいと考えております。議会は議員1人1人が多くの市民の皆様の声を聞き、議会へ反映させ、発信し、より知識を蓄え、政策立案できる議会でなければならないとも考えており、そのような議会への一歩をも支えられる存在になれるよう全力を尽くしてまいります。

期数を重ねた見識の高い先輩諸氏と新たに選出された議員との橋渡しの役としても尽力してまいります。議員各位のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

○中谷選考委員長 それではこれより野田議員に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。森下議員。

○森下議員 今野田議員の思いをお聞かせいただいたわけですがけれども、少し具体的なところでの中身についてはもちろん副議長ということですから議長をサポートしていくということでもありますけれども、先ほどの大塚議員さんとの質問とも重なるところもありますけれども、やはり市民とのかかわりという、市民に開かれたという、この1番大きなこの点をさまざまな形で、今議会としても意見交換会あるいは議会傍聴の呼びかけ等でやっておりますが、この中でとりわけ今、この1期やってきて感じておられる課題ですとか、思いなんかがあれ

ばお知らせください。

○中谷選考委員長 野田議員。

○野田議員 森下議員のご質問に対する答弁をさせていただきます。今私がこの4年間議会改革検討協議会のほうで、議会改革、そして開かれた議会に対して一生懸命進めてきた所存でございます。それは、池辺議長も同じく委員として意見を共有しているところがあるのだと思うっております。

その中で、特にここはというところは、意見交換会についてでございます。同じ団体の方が何度となくお話をさせていただき、それはそれで深く知ることができ深く話し合いの場を持ち、そしてまた別の形をもって意見交換会をすることができている。それはこの間の議会改革検討協議会の中でも対面式の意見交換会ではなく、グループワークをして皆さん方ともしっかりと話してもらおう、おひとりおひとりが話すような機会をつくろうというようなことを進めてきた。それが1つ意見交換会については進歩した点です。

ただ、意見交換会、こちらのほうから、以前から出ているところでは、保育園、こども園などのお母さん方にちょうどお迎えにこられるような時間を設定して、また土曜日日曜日を設定して、お母さん方とともにこちらから話しませんかというような呼びかけをする、呼びかけをして手を挙げてくださったこども園に議員全員でお伺いをする、そのような形で自分たちから発信するのではなく、そういうことがあるという、そういうシステムがあるということを知らないかもしれない。45パーセントを切っているこの投票率の中では、半数の方が市が何をやっているのか、ましてや市議会がどのような活動をして、どのような思いで開かれた議会と言っているのかが分からないと思っていらっしゃる方が多くいらっしゃるということだと思っています。であるならば、そのこちらからアウトリーチとして、まだ声を上げない、声を上げれていない方たちのそばへ行って、お話を聞くということが必要だと思っています。

もう1つ、意見交換会だけではなくって、討論会、そしてまた報告会という形ででも、ワークショップ形式で小さなグループでお話をしていけるというようなことも進めていったらいいんじゃないかというふうに私個人としては考えています。そのような形が1つずつ1つずつ前へ進んでいくような泉大津市議会であってほしいというふうに思っております。以上、これでよろしいでしょうか。

○中谷選考委員長 いいですか。

○森下議員 はい。

○中谷選考委員長 はい、他に。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○中谷委員長 他にないようでありますので質疑を終わります。どうぞ、席に戻ってください。

以上で泉大津市議会副議長選挙に係る所信表明演説会を終了いたします。ありがとうございました。

(午前11時32分 閉会)